

「6月号」約束の年20158つの宿題」を読んで」

■私たちが、こうやって普通に生きていく時、この世界のどこかで苦しんでいる人がいることを実感しました。今、私たちが何をすべきか、なにかできることはないか考えさせられました。いちばんは、恥じない生き方をするということ、ちゃんと生きることだろうと思います。私にはまだ可能性があるので。この子たちにできることいっぱいあるんです。決して目をそらしてはいけません。この問題、経済格差、なくすことはできなくてもへらすことはできません。私たちにできることを最大限までやらなくちゃいけません。進んで活動を行いたいです。JICAで働きたいです。明るい未来を作りたいです。

(愛知県・15歳・女性・学生・川野茉衣)

■海外協力に興味はあるが、自分はまだ一歩を踏み出せていない。この雑誌を読み、海外で活動されている人や企業に尊敬し、いつも刺激をうけている。

(鳥取県・22歳・女性・大学生・児玉友紀)

「7月号」大切にしたい生命の豊かさ」を読んで」

■特集記事を読み、改めて、我々は「生かされている」と思いました。普段当然のように使っているモノの多くが、貴重な生命を失うことで得られていることを子どもたちに伝えていきたいです。直接目にするのでできない、見えない遠方で起こっていることを自分の問題として捉えることができれば...という願いでいっぱいです。

(鹿児島県・37歳・男性・教員・鶴長隆盛)

■7月号の特集「大切にしたい生命の豊かさ」がよかった。生物多様性の恩恵を受けているのに、現状では驚くべきスピードで失われている。その多くが途上国である。JICAがその復元・保全に取り組んでいるのを知り喜ばしい。資源のない日本は技術力、経済力で支援、援助する活動が求められる。

(北海道・76歳・男性・蝦名良治)

本誌へのご意見・ご感想や
JICAへのご質問を
お寄せください。

プレゼント
付き

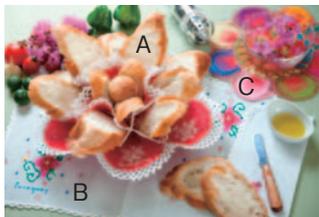
添付のアンケートはがき、Eメール、FAXから、本誌に対するご意見やご感想、またJICAへのご質問を、氏名・住所・電話番号・職業・年齢・性別・ご希望のプレゼントを明記の上、お送りください。ご記入いただいた個人情報は統計処理およびプレゼント発送以外の目的で使用いたしません。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

◎応募締切：2010年10月15日

Email: jica@idj.co.jp

F A X : 03-3582-5745 (『JICA's World』編集部宛)

- ① A. バゲット入れ、B. ランチョンマット、C. 手編みレースの敷き物
- ② 書籍『ライオンの咆哮のとどろく夜の炉辺で』(p30参照)
- ③ 書籍『新しい国際協力論』(p30参照)



本誌をご希望の場合は
下記方法で
お申し込みください。

申込方法

本誌をご希望の方には、送料をご負担いただく形でご送付いたします。巻末の払込取扱票に、氏名・住所・電話番号・ご希望の送付期間・送付開始月を明記の上、指定の金額を郵便局でお支払ください。入金の確認後、発送手配をいたします(入金から1週間程度かかることもありますのでご了承ください)。複数冊、またはバックナンバーをご希望の方は送料が異なりますので、下記までお問い合わせください。

申 込 先 (株)国際開発ジャーナル社 業務部(発送代行)
住 所 〒107-0052 東京都港区赤坂2-13-19 多聞堂ビル
T E L 03-3584-2191
F A X 03-3582-5745
E m a i l order@idj.co.jp



次号予告 (2010年10月1日発行予定)

科学技術・高等教育支援

近年、多くの途上国が注目する「科学技術」。日本が持つ高い科学技術力への期待も高い。次号では、国の発展を支える産業人材の育成を目指したJICAの高等教育支援を紹介します。

訂正とお詫び：2010年7月号p4に誤りがありました。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

[誤] 焼き畑やプランテーションなどで消えゆく緑は、毎年1,500ヘクタール以上

[正] 焼き畑やプランテーションなどで消えゆく緑は、毎年1,290万ヘクタール

JICA's World

SEPTEMBER 2010 No.24

編集・発行／独立行政法人 国際協力機構 Japan International Cooperation Agency : JICA

〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル1～6階
TEL : 03-5226-9781 FAX : 03-5226-6396 URL : http://www.jica.go.jp/

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。